

当院で腹部大動脈瘤破裂にて手術治療（開腹手術やステントグラフト内挿入術）を受けられた患者さんへ

当院では、より良い治療を行うための調査研究を実施しています。

「破裂性腹部大動脈瘤に対する開腹手術とステントグラフト内挿術の治療選択に関する全国施設観察研究」に関する調査を行っています。

破裂性腹部大動脈瘤は未だに死亡率の非常に高い救急疾患であり、通常その死亡率は18~40%と言われております。治療法としては、従来の開腹手術に加えて、ステントグラフト内挿術という新たな治療法が破裂性大動脈瘤にも使用できる場合があり、救命率の改善を期待して、近年、破裂例に対するステントグラフトの使用が急増しております。しかし、実際のところ、ステントグラフト内挿術によって救命率が改善しているのかどうかは意見が分かれており、また、どのような症例であればステントグラフト内挿術がより適していて、どのような症例なら開腹手術が選択されるべきなのかも、十分に分かっておりません。

本研究の目的は、破裂性腹部大動脈瘤症例の治療内容を全国から広く集め、多数の症例のデータを解析することで、開腹手術が適する症例とステントグラフト内挿術が適する症例を明確にし、そうしたデータに基づいて適確な治療法を導くことで、日本における破裂性腹部大動脈瘤の救命率向上を目指します。

診療録から、役に立つ記録を収集します。

新たに、検査や経過を伺うことはありません。また、氏名等の個人情報収集しません。

調査の対象は、一部の方です。

2018年1月1日から2020年12月31日のあいだに、当院で腹部大動脈瘤破裂にて手術治療（開腹手術やステントグラフト内挿入術）を受けられた患者さんのうちの一部の方を対象としています。

お名前や個人情報がでることは、一切ありません。

結果は学会等で公表しますが、お名前などの個人情報がでることはありません。なお、公表後に収集資料は破棄されます。

ご不明な点がございましたら、下記当院担当科までお問い合わせください。

収集資料等の提供先

当院で収集された記録等は、日本血管外科学会破裂性腹部大動脈瘤の研究委員会、旭川医科大学外科講座教授 東 信良さんのところへ送られ、解析が行われます。

調査にご協力をいただけなくとも、不利益を受けることはありません。

この調査に協力を頂けなくとも、不利益を受けることは全くありません。たとえそれがアンケート（インタビュー）回答後であっても、いつでもお断りいただけます。

その場合は、2023年12月31日までに、下記までお申し出ください。

連絡先：済生会横浜市東部病院 血管外科 下河原達也
電話 045-576-3000
内線 (PHS) 9276
住所 〒230-0012 横浜市鶴見区下末吉 3-6-1